



もろすみともなり 両角友成県議会報告

本会議では一般質問に立ちました

重度難聴児への 補聴器購入に補助を

両耳に人工内耳の手術を受けた子どもは、手術と初期の補聴器セットは子ども医療費助成で負担軽減されるが、その後の補装具として医療費での助成は5年後となる。人工内耳セットは自費で購入すると両耳で約100万円かかり、保育園のプール遊びの防水用予備を購入できずプールを諦める子どももいる。いま異次元の少子化対策が言われており、今こそこの子らに行政として手を差し伸べる時ではないかと質しました。



本会議で登壇（2月28日）

「#7119」に メール対応の追加を

昨年10月導入の長野県緊急安心センター「#7119」は、難聴者の方から利用にあたって「妻の体調が悪く#7119に電話をしたいが利用の術がなかった」との訴え。メール対応の追加を求めました。

答弁ではメールの受信環境を構築するなど相談体制の整備を進めるとの事で一歩前進しました。

マイナ保険証に一本 化せず、現行の保険 証を残して

政府は現行の保険証を本年12月2日に廃止し、マイナ保険証に一本化すると強硬姿勢です。個人情報の誤登録などで国家公務員の利用率でも4・36%と低迷している。きちんと保険料・保険料を納めている国民に保険証を交付しないのはおかしい話であり、知事には

望していくとの事でした。

環境文教委員会の報告



教育委員会 県立の特別支援学校（18校）より要望されているスクールバスが、緊急整備事業として1127万円余の予算で6台が増車されます。また、応急的なニーズに対して大型ワゴン車3台をリースで運用します。

夜間中学は、令和8年度までに全都道府県に一つ設置が政府方針ですが、県教育委員会でも検討会議を年4回開催し、市町村・有識者とともに設置場所の選定や入学対象者の範囲、市町村との費用負担の在り方を協議し、設置の基本方針・作成を行います。

環境部 能登半島地震の被災への支援について、現地へ給水車の派遣、漏水調査、復旧作業への派遣の報告がありました。下水道も含め息の長い支援となります。

ゼロカーボン戦略に関しては、環境に配慮した電気自動車（EV）は、電気そのものが再生可能エネルギーで発電されることが本来の姿ではないか。目指すゼロカーボン社会の姿やビジョンを県民や事業者に示して、具体的な行動を促す取り組みを求めました。

国に現行の保険証を残すよう求めている。また、医療現場からは、カーディーラーに1台50万円、LANポートの増設工事も必要。県の補助金創設を望むと要望も伝えました。

答弁は、現行保険証の存続というより、むしろマイナ保険証の普及を図っていくことが重要だとの姿勢でした。

私からは、保険証は国民皆保険の根幹。巨額の予算と人手をかけて、欠陥だらけのマイナ保険証に一本化するのには愚策というしかない。現行の保険証の廃止を強行すれば、混乱が今と比べようもなく広がることは明らか。現行の保険証を残すべきと力説しました。



J A長野中央会と懇談
（2月2日）



議会運営委員会（2月5日）

ご意見・ご要望をお寄せください。

